

2021(令和3)年度 横手市子ども読書活動推進計画調書

基本目標2	子どもの読書環境の整備、充実		
	1. 市立図書館の整備、充実 【担当課】 図書館課		
目標値	項 目	2020年度実績	2022年度目標
	児童書の蔵書数	121,147点 数値目標(115,000点)達成済み	
	ティーンズコーナー設置図書館数	数値目標(6館)達成済み。蔵書の更新等、内容の充実を図る。	
目標値に対する現状と課題	【現状】 ・市立図書館は、児童コーナーを設置して、子ども向けに多くの図書を揃え、読書に親しむ機会と場を提供しており、子どもの読書活動推進の中心的役割を担っている。 ・児童コーナーには、赤ちゃんから小・中学生までの絵本、物語、図鑑等があり、子どもたちが読書や調べもの学習に利用でき、「おはなし会」等の会場としても利用されている。 ・市立図書館では乳幼児と保護者が安心して利用できるよう、ベビーキープやおむつ交換台を整備し、「こどものえき」として登録されている。		
	【課題】 ・子どもや保護者が本に親しみやすい環境を作り、より良い資料の購入に努め、読書相談や調べ学習の援助などサービス体制の充実を図ることが大切である。 ・自習のために来館することの多い中学・高校生にはティーンズコーナーの充実を図り、読書離れを食い止めることも必要である。		
これまでの取り組み(2021年度の実績)と成果	定評のある絵本の選及購入などを推進するなどし、児童書蔵書数が121,147点(令和3年3月31日現在)とすでに目標値に達している。 また、ティーンズコーナーの設置とあわせて、「おススメの本100選」の展示なども行っている。		
今後の取り組み(計画・予定など)	児童書蔵書数は目標値を達成済みだが、令和4年度は、複本や図書の状態の確認なども実施し、適切な除籍を推進することで、より魅力ある蔵書構築に取り組んでいく。 更なる乳幼児と保護者の利用促進のため、授乳スペースを確保するなどし、館内設備の整備・充実を図る。		

2021(令和3)年度 横手市子ども読書活動推進計画調書

基本目標2	子どもの読書環境の整備、充実		
	2. 学校図書館の整備、充実		
	【担当課】 教育総務課		
目標値	項 目	2020年度実績	2022年度目標
	学校司書・学校司書補助員の配置割合	数値目標(100%)達成済みのため、活用方法の充実を図る。	
	新聞配置校の割合	数値目標(100%)達成済みのため、活用方法の充実を図る。	
目標値に対する現状と課題	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校20校すべてに、学校司書又は学校司書補助員を配置(兼務校含む)し、学校図書館の読書センター・学習情報センターとしての機能強化に努めている。 ・学校図書館図書標準の達成校は、令和2年度「学校図書館の現状に関する調査」によると、23校中11校(47.8%)となっている。図書システム導入校は、令和3年度で20校中20校(100%)、新聞配備状況は20校中20校(100%)となっている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館の運営に関して、図書コーナーの充実を図るとともに、展示の工夫等を行い、その魅力向上を目指した体制づくりが大切である。 ・市の財政状況が厳しい中ではあるが、学校司書及び学校司書補助員の雇用経費や図書館資料の購入経費等を確保し、学校図書館を運営していくことが必要である。 		
これまでの取り組み(2021年度の実績)と成果	<p>学校司書補助員の配置割合については、平成27年度に100%を達成し、それ以降市立全小中学校(兼務を含む)への配置を継続している。</p> <p>新聞配置校の割合については、平成25年度に100%を達成し、それ以降市立全小中学校への配備を継続している。</p>		
今後の取り組み(計画・予定など)	<p>学校司書・学校司書補助員の配置割合及び新聞配置校の割合は、令和4年度も100%を継続し、児童生徒の図書資料・新聞を活用した言語活動環境の整備、充実を図る。</p> <p>また、学校司書及び学校司書補助員を対象に、定期的な研修や図書館参観を実施し、各学校図書館の改善を図る。</p>		

2021(令和3)年度 横手市子ども読書活動推進計画調書

基本目標2	子どもの読書環境の整備、充実		
	3. 市立図書館と学校図書館の連携の推進		
	【担当課】 教育指導課（協力:図書館課、小中学校）		
目標値	項 目	2020年度実績	2022年度目標
	横手市学校図書館・市立図書館合同研修会の回数	1回	3回
	学校(小中高、特別支援)への団体貸出の回数	418回	500回
目標値に対する現状と課題	<p>【現状】 横手市学校図書館・市立図書館合同研修会を三回実施した。第一回目は、7月9日「市立図書館と学校図書館との連携について」をテーマに、中学校区毎三班に分かれて今年度の取組の計画立案を協議した。第二回目は、11月26日「児童サービス論と読み聞かせについて」の秋田県図書館協会出前講座の動画を視聴後、7月の合同研修会で計画立案した取組の進捗状況を報告し合った。第三回目は、1月21日「市立図書館と学校図書館との連携について」をテーマに、取組の成果と課題を協議した。各班の取組内容としては、「横手の文化・歴史に関する企画展」(横手・十文字地区)、「各校図書委員・公立図書館来館者による本の推薦」(平鹿・増田地区)、「中学校区おすすめの本の感想」(横手明峰中学校区)がある。 市立図書館からの団体貸出には、授業支援として依頼に基づく随時貸出と、読書支援として定期的にセット貸出をする巡回図書館事業の貸出がある。地域ボランティアによる読み聞かせを実施している学校も多くあり、児童生徒への読書指導の意識は高まっている。また、令和2年度における市立図書館体験や図書館学習を行ったのは3小学校。職場体験やインターンシップを行ったのは、1中学校である。令和2年度に学校支援事業として、市内小中学校の各学級にのべ5回にわたり図書セットを、1小学校に展示BOXの配本をした。</p>		
	<p>【課題】 ・新型コロナウイルスの感染状況にもよるが、十分な取組の時間確保。 ・市立図書館と学校図書館のよさを取り入れるような交流。</p>		
これまでの取り組み(2021年度の実績)と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して、連携についてのテーマを設定し研修を重ねてきた。計画的にPDCAサイクルを活用した取組を展開することができた。 ・市立図書館と学校図書館との連携を図る手立てとして、大きく中学校区毎に三班に分けて取り組んだ。身近な地域毎に取り組むことで、地域の特性を踏まえ、対象となる人の見える展開が見られた。 ・市立図書館と学校図書館のもつ機能や展開、企画、資料などの情報交換と共通理解を図った。それぞれの持つ特性を生かすことで、さらなる連携が図られると職員の声が高まった。 ・市立図書館から学校への団体貸出について、令和2年度は、418回となっている。読書支援図書だけではなく、授業支援図書等も積極的に活用されている。 		
今後の取り組み(計画・予定など)	<ul style="list-style-type: none"> ・連携の具体的な取組を、長中期的なPDCAサイクルを活用して推進するためにも、第一回合同研修会を年度早期に開催し、2021年度の振り返りを生かして実施する。 		